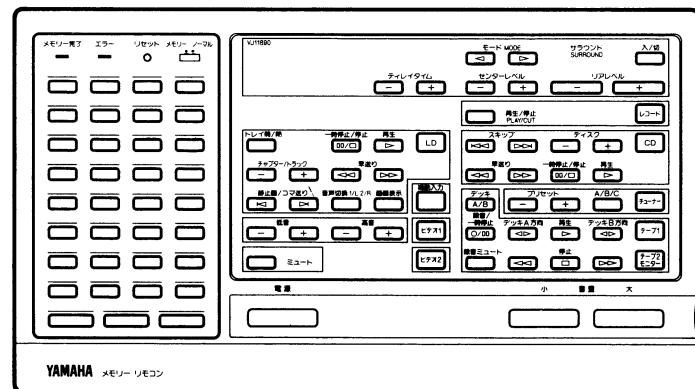
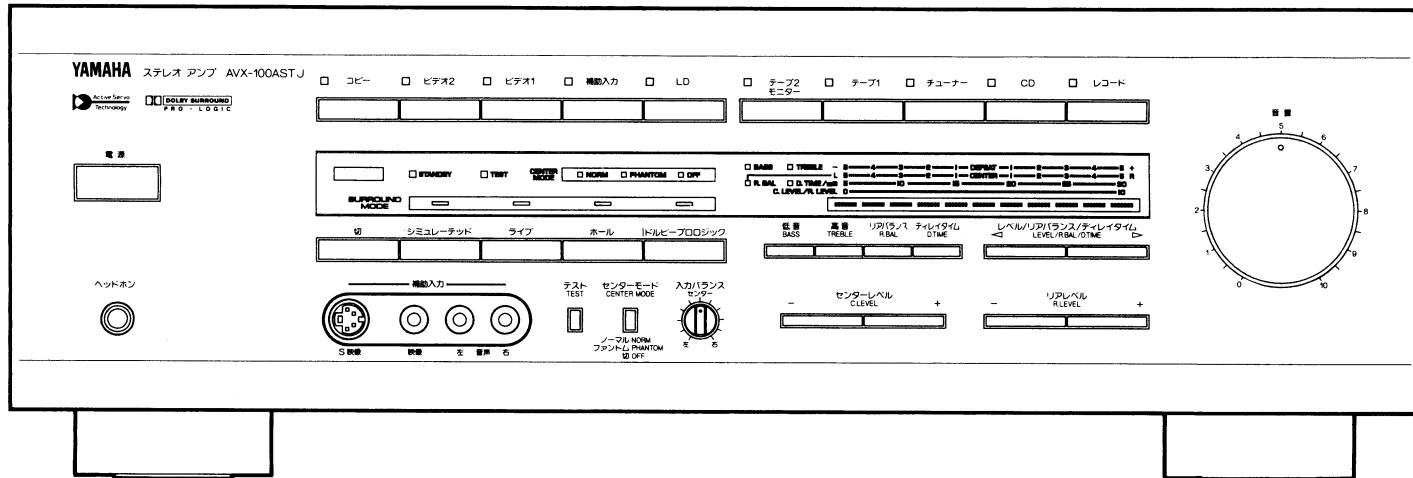


AVX-100ASTJ

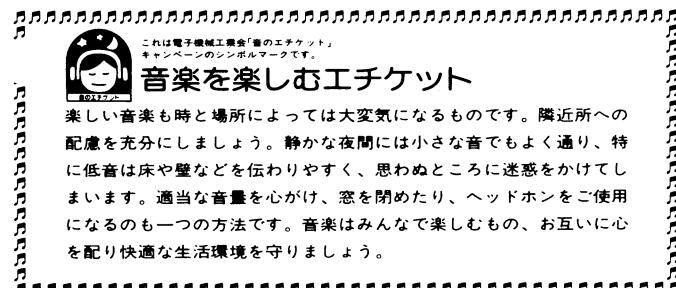
ステレオアンプ

取扱説明書



このたびは、ヤマハステレオアンプAVX-100ASTJをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本機の優れた性能を充分に発揮させ、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

また取扱説明書はお読みになったあとも、保証書とともに大切に保管してください。



これは電子機械工業会のエチケット

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてします。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

特長	1
設置場所について	1
付属品	1
豊かなAVライフのために	2
各部の名称とはたらき	3
システム接続図	5
操作のしかた	7
サラウンド再生について	8
サラウンド再生の準備	9
サラウンド再生のしかた	10
サラウンド再生の種類と特長	11
リモコンについて	12
故障かなと思ったら	16
ブロックダイアグラム	17
参考仕様	18
ヤマハホットラインサービスネットワーク	19

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万ーサービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用の前に必ずお読みください。

YAMAHA

特長

本機は、ヤマハ最新のデジタル技術・音場処理技術を駆使し、ハイクオリティなオーディオ特性の追求と、同時に発展型AVシステムのコントロールセンターとしてお使いいただけるよう設計されたアクティブ・サーボ・プロセッシング・アンプです。

●多機能 入・出力コントロール装備

本機はオーディオ9系統、ビジュアル4系統の入力端子およびオーディオ4系統、ビジュアル3系統の出力端子を装備しています。さらにインプットセレクターはオーディオ、ビジュアル各々を独立選択可能としていますので、様々な映像、音声の組合せをお楽しみいただけます。またビジュアル入・出力端子には、S-VHS、EDベータ、Hi8方式対応のSビデオ端子も装備しています。

●アクティブ・サーボ・プロセッシング・アンプ回路搭載

フロント(メイン)にアクティブ・サーボ・プロセッシング・スピーカーを接続すると、サラウンド再生など、より迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。

●デジタルサラウンド内蔵

基本的なサラウンド再生機能を3種用意しました。加えてドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダを搭載し、音像の移動感、チャンネルセパレーションに優れた再生をすることができます。また新たに付加されたセンター・チャンネルは、映画などのビジュアルソース再生時にセリフなどをはっきりと中央に定位させるため、画面への集中感が得られます。

●ディレイタイムコントロール機能

サラウンド再生時、サラウンド効果音の遅延時間(ディレイタイム)をコントロールすることで、サラウンド効果の音の広がりを変化させることができます。

●電子式トーンコントロール

トーンコントロール回路は電子式を採用しました。付属のリモコンを使って、リスニングポジションでトーンコントロールが可能です。

●高性能ディスクリート構成パワーアンプ搭載

フロント(70W+70W/6Ω)、リア(18W+18W/6Ω)、センター(18W/6Ω)の5チャンネルパワーアンプを搭載しました。

●ラーニングリモコン標準装備

本機およびRSマーク付き機器の操作に加え、メモリー機能のある37のキーを持つラーニングリモコンを装備。リモコン1台で本機に接続されるほとんどの機器をコントロールすることが可能になりました。

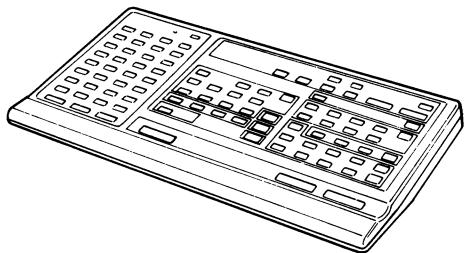
 DOLBY SURROUND はドルビー ラボラトリーズ ライセンシング コーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

ドルビー、DOLBY およびダブルD記号  はドルビー ラボラトリーズ ライセンシング コーポレーションの登録商標です。

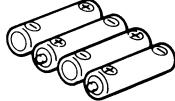
付属品

■付属品を確認してください。付属品は7種類あります。

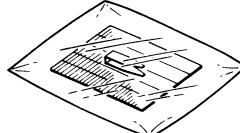
●リモコン



●単3乾電池 4本



●シール 1セット



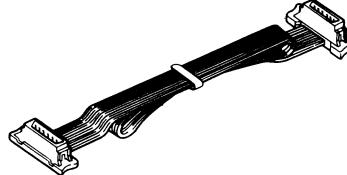
●ピンプラグコード(映像用)×1



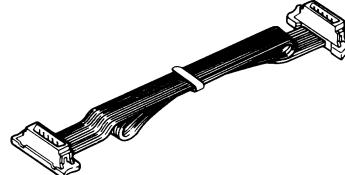
●リモコンケーブル(レコードプレーヤー用)×1



●6ピンリモコンケーブル(カセットデッキ用)×1



●5ピンリモコンケーブル(チューナー用)×1



■設置場所について

本機を設置する場合は、通気性のよい場所を選び、放熱を妨げないようにしてください。

また本機はデジタル機器ですので、本機を使用中は他の機器に影響を与えることがあります。テレビ画面が乱れたり、チューナーに雑音が混入するようなときは、それらの機器と本機の設置場所を離してください。

テレビやチューナーが簡易型の室内アンテナを使用している場合には、専用の屋外アンテナに換えると、テレビやチューナーへの影響が軽減することができます。

本機をご使用にならないときは、本機の電源スイッチを切にしておいてください。

豊かなAVライフのために (使用上のご注意)

■電 源

国内のみでご使用ください。
家庭用電源コンセント(AC100V)に接続してください。
※動作不良や故障の原因になります。

■電源コード

電源コードはひっぱらないでください。(プラグを持って抜いてください。)
電源コードの上に重い物をのせないでください。
※電源コードが断線したり、感電の原因になります。

■本体

キャビネットは開けないでください。
セットの中に金属類(針・硬貨など)を入れないでください。
セットの中に液体(水・アルコールなど)を入れないでください。
セットの中に燃えやすいもの(紙・布など)を入れないでください。
※火災・感電・故障の原因になります。

■設置場所

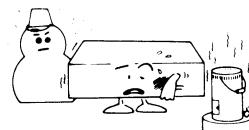
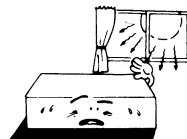
ぐらついた台の上や、傾いた所には置かないでください。
※落ちたり、倒れたりして危険です。
湿気の多い所、ほこりの多い所、直射日光の当たる所、温度の高い所、極端に寒い所には設置しないでください。
※動作不良や故障の原因になります。

■長期間

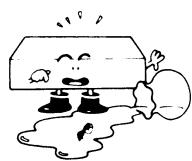
旅行や外出などで長期間留守にされる場合は、安全のために電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
※不慮の事故が防げます。

高温・低温はさけて !

窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・
温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・
湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



ほこり・水気をさけて !

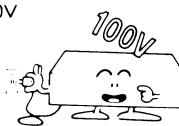


不安定な場所をさけて !

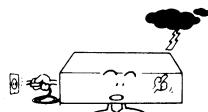


国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V

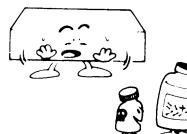


雷が近づいたら

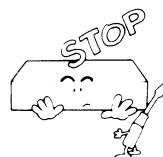


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

薬物厳禁



開けないで !



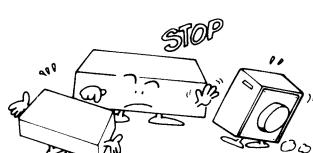
引っぱらないで !



チューナーやテレビと近付けない !

本機はデジタル信号を扱いますので、電波を
扱う機器に障害を与える場合があります。
チューナーやテレビなどとはできるだけ離して
設置してください。

障害をなくすために、チューナーやテレビのア
ンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケー
ブルで配線することをお勧めします。



こわれた?



16ページの「故障かなと思ったら」
をご覧ください。

取扱説明書はかならず 保管してください。



ファイルなど

各部の名称とはたらき

ビジュアルインプットセレクター

ビジュアルソースを選択するキーです。
押したキーのインジケーターが点灯します。

コピー……選択されているビジュアルソースを固定します。このキーを押してインジケーターが点灯しているときは、他のビジュアルソースのキーを押しても切り換わりません。
ビデオのダビングをするときなどに使用します。

ビデオ2 ……ビデオデッキ2。

ビデオ1 ……ビデオデッキ1。

補助入力…フロントパネルの補助入力端子に接続したビジュアル機器。
LD………レーザーディスクプレーヤーあるいはCDVプレーヤー。

スタンバイ

STANDBYインジケーター

本機の電源をリモコンで切ると点灯します。点灯しているときは、リモコンで電源を入れることができます。フロントパネルの電源スイッチで電源を切ったときにはこのインジケーターは点灯しません。

電源スイッチ

- 押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。
- 電源が入ると、音量コントロールおよびインプットセレクターのインジケーターが点灯します。またサラウンドやディレイタイムインジケーターは選択されている状況に応じて点灯します。
- リモコンを使って電源を切ったときはSTANDBYインジケーターが点灯します。

リモコン受光窓

付属のリモコンからのコントロール信号(赤外線)を受光するところです。

ヘッドホンジャック

ステレオヘッドホンで聞くとき、このジャックにヘッドホンのプラグを差し込みます。ヘッドホンでは、メインスピーカーから出る音が聞こえます。

ヘッドホンを接続すると、スピーカーから音は出なくなります。

サラウンドモードセレクター

サラウンド再生するときモードを選択するキーです。

切……………サラウンド再生しないときに押します。音はメインスピーカーからのみ出ます。

シミュレーテッド…………モノラルソースの再生に適したポジションです。

疑似ステレオ効果で音像イメージが広がりを持つて聞こえます。またステレオソースの場合は、より広がり感のある音をお楽しみいただけます。

テスト

TESTインジケーター

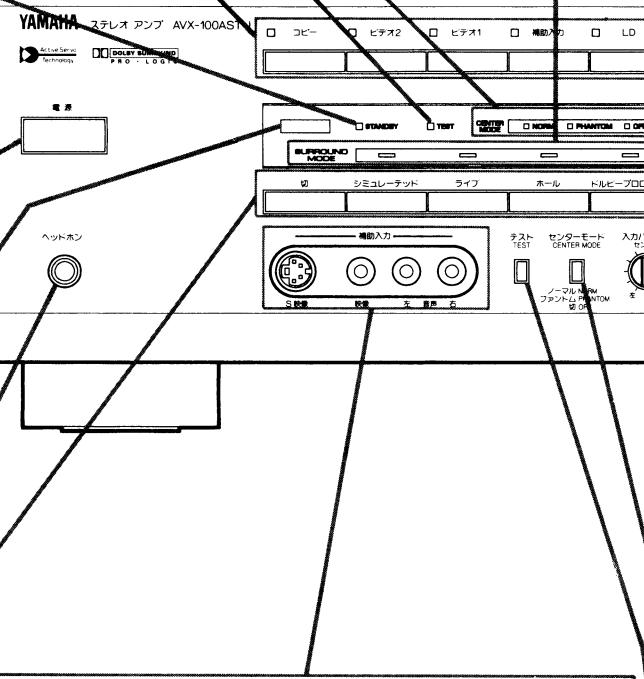
テストトーンを使ってドルビー・プロロジック・サラウンド再生時の各スピーカーのバランスを調節しているときに点滅します。

センターモード CENTER MODEインジケーター

センタースピーカーのモードを表示します。

サラウンドモード SURROUND MODEインジケーター

サラウンドのモードを表示します。



補助入力端子

ビジュアル機器用の予備端子です。

接続する機器の映像出力端子と映像端子を、音声出力端子と音声(左、右)端子を接続します。

接続する機器に映像S出力端子があるときは、S映像端子に接続します。

ライブ……………残響音を強調し、スタジオ録音のライブなどを再生するのに適したポジションです。

ホール……………コンサートホールの中程の席で聞いている感覚の音像イメージです。

ドルビープロロジック… マークのついたビジュアルソフトを再生するときにこのポジションにします。

オーディオインプットセレクター

オーディオソースを選択するキーです。
押したキーのインジケーターが点灯します。

テープ2 テープデッキ2。

モニター 3ヘッドデッキをテープ2端子に接続すると、
このキーを押してテープモニターができます。
録音時レベル調節などに便利です。

テープ1 テープデッキ1。

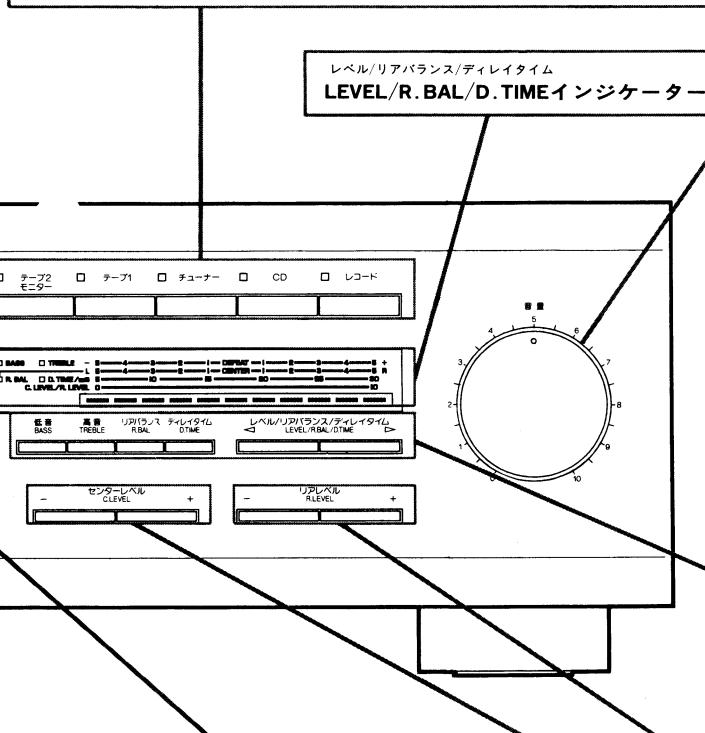
チューナー チューナー。

CD CDプレーヤー。

レコード レコードプレーヤー。

●オーディオインプットセレクターでは、ビジュアルソースの音声のみを切り換えることができます。

たとえば、ビデオ1の映像を見ながらCDの音を聞くときは、ビジュアルインプットセレクターのビデオ1を押し、次にオーディオインプットセレクターのCDを押します。



センターモード(CENTER MODE)スイッチ

このスイッチを押すたびにセンターモードインジケーターが順に点灯し、センタースピーカーのモードを切り替えます。

ノーマル(NORMAL) センタースピーカーが接続されているときはこの位置にします。

ファンタム(PHANTOM) センタースピーカーを接続していないときはこの位置にします。センターのチャンネル成分は左右のメインスピーカーに振り分けられて出力されます。

切(OFF) 通常はノーマルまたはファンタムの位置で使用しますが、入力バランス調節を行うときのみこの位置に切り替えます。

テスト(TEST)スイッチ

テスト信号を入、切するスイッチです。テスト信号は、ドルビー・プロロジック・サラウンドで再生するときのスピーカーの音量バランスを調節するときに使用します。

このスイッチは、サラウンドモードセレクターのドルビープロロジックが選択されているときに働きます。

音量コントロール

全体の音量を調節します。右に回すほど音が大きくなります。

レベルコントロールセレクター/レベルコントロールキー

レベルコントロールセレクターで低音、高音、リアバランス、ディレイタイムの中から調節するものを選び、レベルコントロールキー(◀レベル/リアバランス/ディレイタイム▶)で調節します。確認は上のレベルインジケーターで行います。

バス
低音(BASS) 低音の調節。BASSインジケーター点灯。
トレブル
高音(TREBLE) 高音の調節。TREBLEインジケーター点灯。
リアバランス
リアバランス(R.BAL) リア(サラウンド)スピーカーのバランス調節。R.BALインジケーター点灯。
ディレイタイム
ディレイタイム(D.TIME) ディレイタイム(遅延時間)の調節。D.TIMEインジケーター点灯。

* 低音、高音はそれぞれDEFEAT(中間)位置でLEVEL/R.BAL/D.TIMEインジケーターが点滅します。DEFEAT位置でフラットな特性が得られます。

* リアバランスはセンター(中央)のときLEVEL/R.BAL/D.TIMEインジケーターが点滅します。

* ディレイタイムはサラウンド再生時のみ調節できます。

* キーを何も押さずに約5秒たつと表示は自動的に消えます。

表示が消えた後でも前に選んだ機能は記憶しています。レベルコントロールキーを操作すれば、前に選んだ機能の調節ができます。

リアレベル

リアレベル(R.LEVEL)キー

リア(サラウンド)スピーカーのレベルを調節するキーです。+を押すと音が大きくなり、-を押すと小さくなります。キーを押すとLEVEL/R.BAL/D.TIMEインジケーターがレベルを表示します。

センターレベル

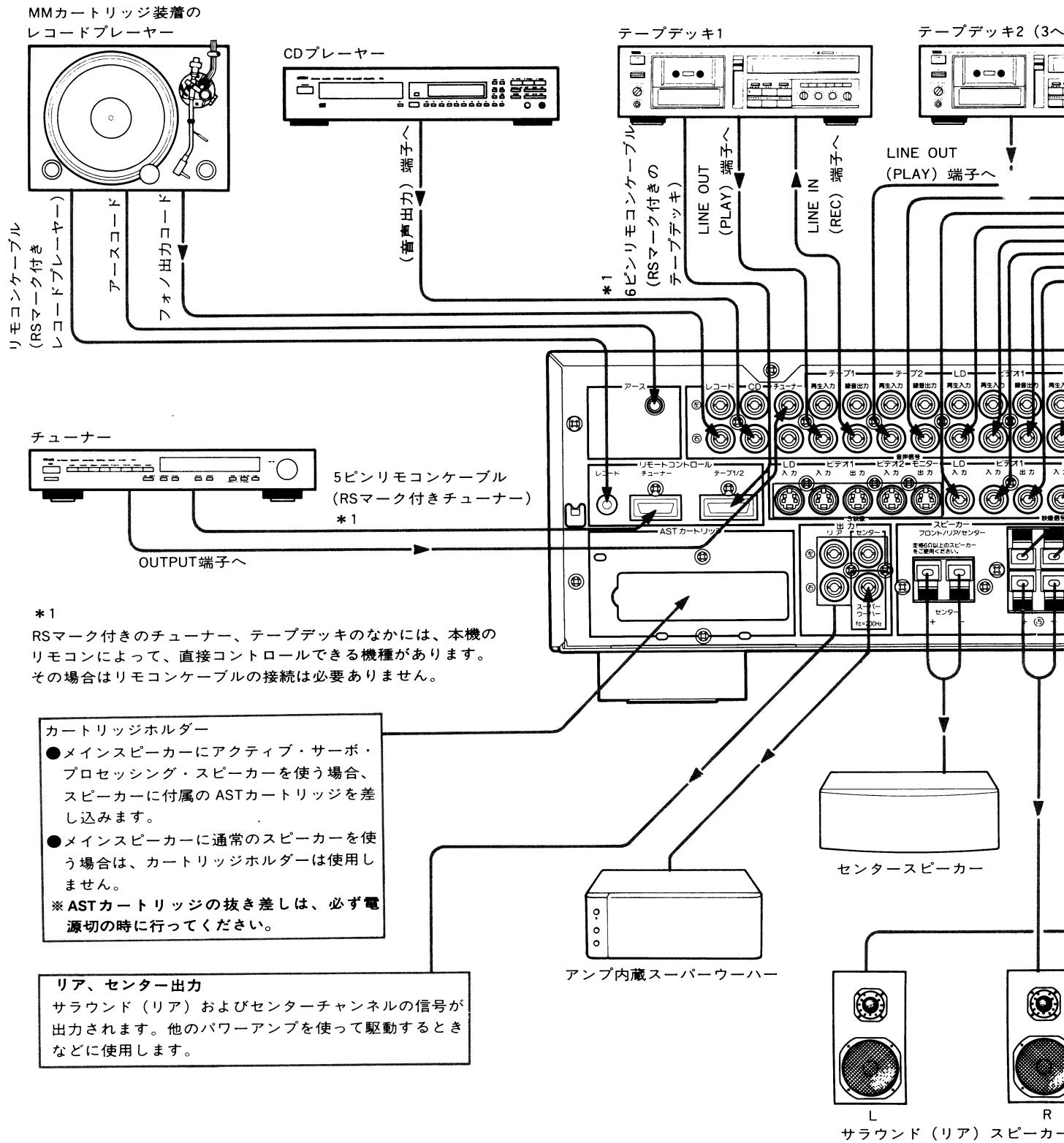
センターレベル(CENTER LEVEL)キー

センタースピーカーのレベルを調節するキーです。+を押すと音が大きくなり、-を押すと小さくなります。キーを押すとLEVEL/R.BAL/D.TIMEインジケーターがレベルを表示します。

システム接続図

- 接続するときは各機器の電源を切ってください。
- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。
- 本機では、ビジュアル系の入・出力端子は黄色、オーディオ系入・出力端子の左(L)チャンネルは白色、右(R)チャンネルは赤色になっています。ただし、出力端子(リア、センター、スーパーウーハー)は黒色です。
- 接続する機器によっては端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

- 接続に誤りのないことを確認してから、電源コードをコンセントに接続してください。
- 本機はデジタル回路を使った機器ですので、他の機器(テレビ、チューナーなど)に影響を与えることがあります。テレビ画面が乱れたり、チューナーに雑音が入るときは、それらの機器との設置場所を離してください。

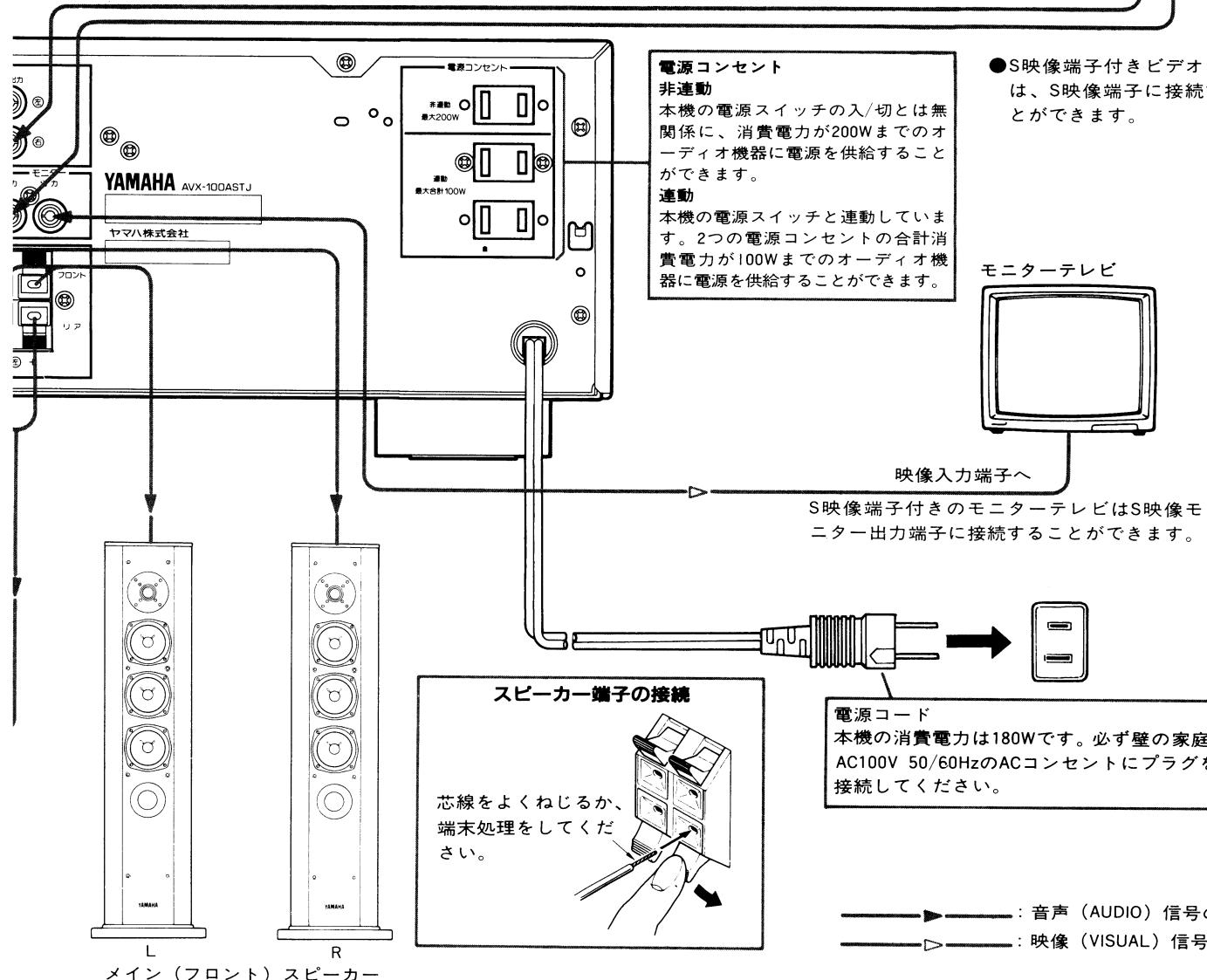
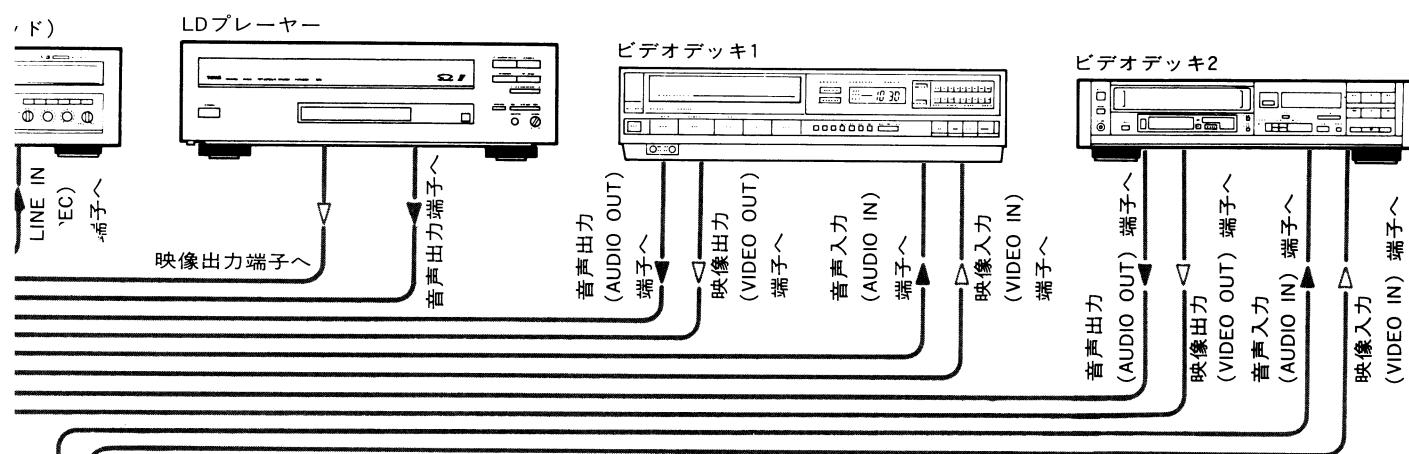


■S映像入・出力端子について

- S映像入・出力端子とピンジャック入・出力端子は別々の回路構成になっていますので、それぞれ独立して機能します。
- ビジュアルインプットセレクターは、S映像入力およびピンジャック入力は連動して切り換わります。S映像入力のないソースを選択しているときは、S映像端子のモニター出力には信号は出力されません。
- S映像およびピンジャック入力端子両方が接続してある場合、信号はS映像端子およびピンジャック端子両方に出力されます。どちらの信号をモニターするかは、モニターテレビ側で選択してください。詳しくはモニターテレビの取扱説明書をご覧ください。

■ASTカートリッジについて

本機ではフロントスピーカーにアクティブ・サポ・プロセッシング・スピーカーが使用できるようになっています。アクティブ・サポ・プロセッシング・スピーカーには専用のASTカートリッジが付属していますので、そのカートリッジを本機リアパネルのカートリッジホルダーに差し込んでください。



操作のしかた

■電源の入、切

フロントパネルの電源スイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

●電源が入にならても数秒間は本機のミューティング機能が働き音は出ません。

●スピーカー保護のため、本機の電源を入れるときは音量コントロールが最小(左に回しきった状態)になっていることを確認してください。

●リモコンを使って電源の入、切を行うときは、STANDBYインジケーターが点灯していることを確認してください。STANDBYインジケーターが点灯していないときはリモコンでは電源を入れることはできません。一度フロントパネルの電源スイッチで電源を入れてからリモコンで操作してください。STANDBYインジケーターはリモコンで電源を切にしたときに点灯します。

【オーディオソースの再生】

1 本機および再生する機器の電源を入れます。

2 オーディオインプットセレクターで再生するオーディオソースを選びます。選んだソースのインジケーターが点灯します。

3 オーディオ機器の再生を開始します。

オーディオ機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

4 音量を音量コントロールで調節します。

*必要に応じて音質の調節をします。(→音質調節のしかた)

【ビジュアルソースの再生】

1 本機、再生するビジュアル機器、モニターテレビの電源を入れます。

2 ビジュアルインプットセレクターで再生するビジュアルソースを選びます。選んだソースのインジケーターが点灯します。

3 ビジュアル機器の再生を開始します。

ビジュアル機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

4 音量を音量コントロールで調節します。

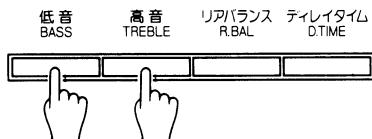
●ビジュアルソースの映像はそのままで、オーディオソースの音を聴くときは、先にビジュアルインプットセレクターでビジュアルソースを選んでから、次にオーディオインプットセレクターでオーディオソースを選びます。

■音質(低音・高音)調節のしかた

音質は必要に応じていつでも可変することができます。

1 レベルコントロールセレクターの低音または高音を押します。

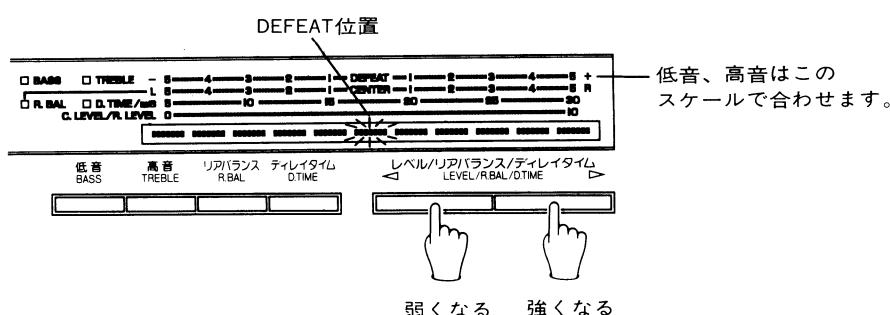
LEVEL/R.BAL/D.TIMEインジケーターが点灯します。



2 レベルコントロールキーで調節します。

中央でLEVEL/R.BAL/D.TIMEインジケーターが点滅する位置がDEFEAT位置で、フラットな特性が得られます。

中央より右にいくほど強調され、左にいくほど弱められます。



■録音、録画のしかた

録音、録画を行う場合、必ず事前に試し録音(録画)を行ってください。

【テープデッキで録音】

1 本機および各機器の電源を入れます。

2 オーディオインプットセレクターまたはビジュアルインプットセレクターで録音するソースを選びます。

3 テープデッキを操作して録音レベルを調節した後、録音一時停止状態(REC PAUSE)にします。

テープデッキの操作方法は、テープデッキの取扱説明書をご覧ください。

4 録音するソースの再生を開始し、同時にテープデッキの録音を開始します。

●ビデオデッキをオーディオデッキとして録音に使用する場合も、同様の操作を行なってください。

●テープ2端子に3ヘッドテープデッキを接続してある場合、オーディオインプットセレクターのテープ2モニターを選ぶと、録音モニターができます。

*テープ2モニターキーを押しても、選択されているソースが切り換わることはありません。

【ビデオデッキで録画】

1 本機および各機器の電源を入れます。

2 ビジュアルインプットセレクターで録画するソースを選びます。選んだソースのインジケーターが点灯します。

3 ビデオデッキを操作して録画一時停止状態にします。ビデオデッキの操作方法は、ビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

4 録画するソースの再生を開始し、同時にビデオデッキの録画を開始します。

●ビジュアルインプットセレクターで録画するソースを選んだ後、オーディオインプットセレクターでソースを選ぶと、映像はそのまま、音声をオーディオソースに変えて録画できます。(つまり、現在モニターしている映像と音がそのまま録画できます。)

■コピーキーについて

ビジュアルインプットセレクターのコピーキーを押し、オーディオインプットセレクターでオーディオソースを選ぶと、録画しながらオーディオソースを聴くことができます。この場合、ビジュアルインプットセレクターで選んだソースの映像と音声がそのまま録画されます。

さらに、選んだオーディオソースの音は、テープ1、テープ2の録音出力端子に出力されますので、ビジュアルソースとは別に録音することもできます。また、コピーキーが押されているときは、ビジュアルインプットセレクターは切り換えられないようになっています。

サラウンド再生について

■サラウンドについて

本機は、コンサートホールやライブスポット、そして映画館で体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタル・サラウンド・プロセッサーを搭載しています。また本機には、従来のサラウンドに加え、劇場などの業務用として使われているドルビー・プロジェクト・サラウンド・デコーダを搭載し、より一層の臨場感をつくり出すことができます。

本機にはセンタースピーカー出力回路が装備され、映画ソフトなどの会話やライブソフトのボーカルなどが中央に明確に定位するため、ビジュアルソース再生時に威力を發揮します。

■ドルビー・プロジェクト・サラウンド・デコーダについて

ドルビー・プロジェクト・サラウンド・デコーダの持つ最も大きな特長に「方向性強調回路」があります。

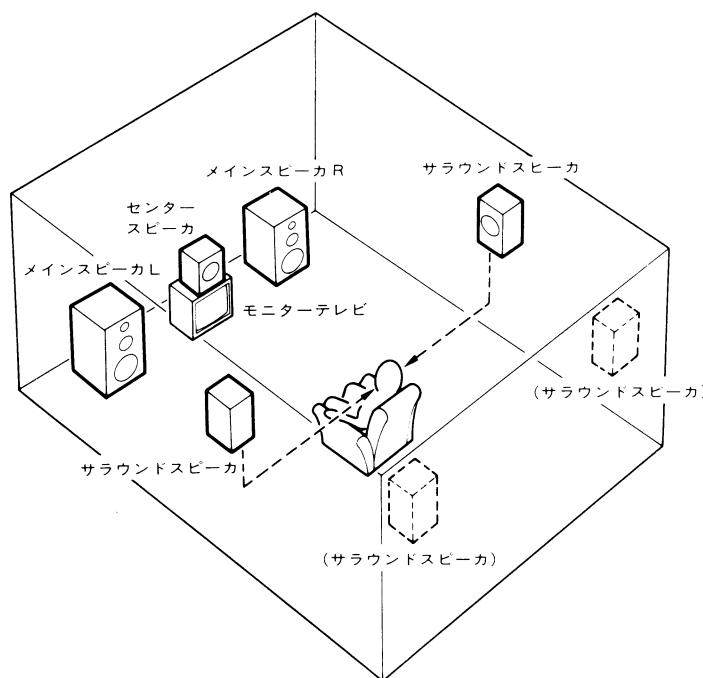
その動作原理は、デコーダへ入力されたL、R信号がL、R、(L+R)、(L-R)の間でレベルの優勢判定が行われ、その結果各チャンネルごとのコントロール電圧が決定されます。次にVCAでコントロール電圧に応じた信号のレベル制御が行われ、その後マトリックス回路を経てL(左)、R(右)、C(センター)、S(サラウンド)の4チャンネルの方向性の強調された信号が出力されます。従来のドルビーサラウンドがL、R、Sの3チャンネル再生が基本であったものに対し、ドルビー・プロジェクト・サラウンドでは、L、R、C、Sの4チャンネル再生が基本となっています。

「方向性強調回路」の優れた点には、まず各チャンネル間のセパレーションの良さがあげられます。

本機に搭載されるドルビー・プロジェクト・サラウンド回路は、従来のドルビー・サラウンドとは異なり、セパレーションが非常に向上しているため、音像の前後左右への移動感がよりクリアに、そしてよりダイナミックに得られるようになりました。

また本機ではL、R、C、Sの各信号を独立してコントロールする「方向性強調回路」となっていますので、音像をより鮮明に定位させることができます。たとえば、映画のセリフ部分などセンターから出るべき音は、従来の「ドルビー・サラウンド」がL、Rの合成でつくっていたものに対し、ドルビー・プロジェクト・サラウンドでは、独立したC(センター)チャンネルに定位させることにより、これまでにない画面への集中感が得られることになります。また、音像がセンターにある場合はL、Rの音量レベルが下がり、さらに音像がRに移る場合はセンターとLの音量レベルが下がるなど、音の移動感は際立っています。この点など、まさに音像の「方向性」を「強調」する「回路」設計となっています。

スピーカーのレイアウト例



■スピーカーについて

従来の2チャンネルステレオで使用する2台のスピーカー(以下メインスピーカーと呼びます)に加えて、ドルビー・プロジェクト・サラウンド効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、そしてリスナーの両サイド(または後方)に設置するサラウンドスピーカーの5台のスピーカーを使用するのが理想です。

しかしリスニングルームの状況によりセンタースピーカーを設置するのが困難な場合は、センタースピーカーを使用しない4台のスピーカー構成でも本機のサラウンド効果を充分にお楽しみいただけます。

●本機はメインスピーカーにアクティブ・サポ・プロセッシング・スピーカーを使用できるように設計されています。本機の性能を100%発揮させるため、メインスピーカーはアクティブ・サポ・プロセッシング・スピーカーをお使いください。

●アクティブ・サポ・プロセッシング・スピーカーに付属のカートリッジを本機リアパネルのカートリッジホルダーに差し込みます。

※カートリッジを差し込んでいないと、普通のアンプとしてお使いいただけます。その場合スピーカーは通常のスピーカーをお使いください。

●センタースピーカーをテレビの近くに設置すると、テレビの画面が乱れることがあります。このようなときはテレビとスピーカーの距離を離すか、防磁タイプのスピーカーをお使いください。

■スピーカーの設置場所について

メインスピーカー：従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。またテレビを設置しているときは、左右のスピーカーとテレビの距離を等しく設置してください。

センタースピーカー：テレビを設置している場合は、できるだけテレビの画面に近いところ(テレビの上または下、あるいはテレビの後方など)に設置してください。

スムーズな音の移動感と定位感を得るためにメインスピーカーの中・高域ユニットの高さにセンタースピーカーを合わせることをお奨めします。

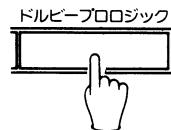
サラウンドスピーカー：原則的にはリスナーの両サイドの壁にリスナーに向けて平行に設置します。高さは床から1.8mくらいが適当です。しかし再生するソースによってサラウンド効果が異なりますので、試聴を繰り返し、適当な設置場所を選定してください。

サラウンド再生の準備

ドルビー・プロロジック・サラウンド再生時、メインの音とサラウンドの音、そしてセンターの音のバランスがとれていないと、よいサラウンド効果は得られません。次の手順にしたがって各スピーカーの音量バランスを調節してください。また、他のサラウンドモードでの再生時にも有効ですので、必ず調節するようにしてください。

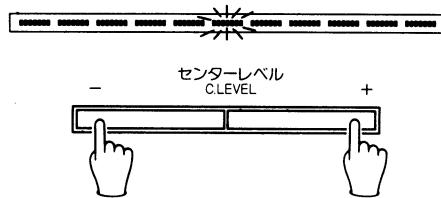
1. 電源の投入

- ①音量コントロールを左に回して音量を最小にします。
- ②本機および使用する機器すべての電源を入れます。
- ③ドルビープロロジックを選択します。
サラウンドモードセレクターのドルビープロロジックキーを押します。
インジケーターが点灯します。

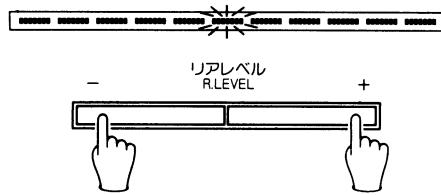


2. 各スピーカーの音量バランスの調節

各スピーカーのレベルを一旦次のようにセットします。
センターレベル……………LEVEL/R.BAL/D.TIME インジケーターの中央が点灯する位置。



リアレベル……………LEVEL/R.BAL/D.TIME インジケーターの中央が点灯する位置。

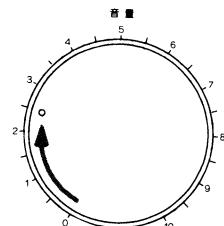


本機内蔵の発振器からのテストトーンを使い、メイン、センター、サラウンドの各スピーカーの音量バランスを調節します。

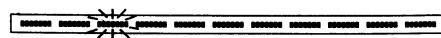
- ①テストスイッチを押します。



- ②音量コントロールを右に回すと、テストトーンが左側のメインスピーカー→センタースピーカー→右側のメインスピーカー→サラウンドスピーカーの順に、約2秒間ずつ発生します。



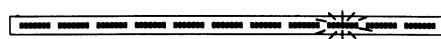
テストトーン発生時のレベルインジケーター表示



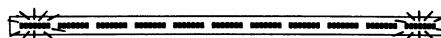
左側メイン
スピーカー



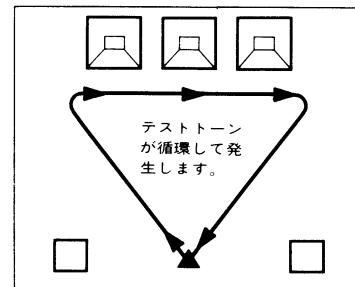
センター
スピーカー



右側メイン
スピーカー



サラウンド
スピーカー



*サラウンド(リア)スピーカーのテストトーンは左右のスピーカーから同時に発生します。

- センタースピーカーを接続していない場合は、センタースピーカーのモードをセンターモードスイッチでファンタムの位置にこれから調節してください。
センタースピーカー用のテストトーンは左右のメインスピーカーに振り分けられて出力されます。

センターモード
CENTER MODE

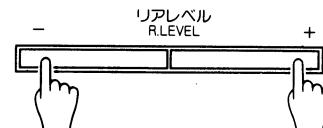


- ③テストトーンを聞きながら、リスニングポジションにおいてすべてのスピーカーからの音量が同じになるように、各スピーカー(センターおよびサラウンド)のレベルを調節します。

- センタースピーカーの音量レベルはセンターレベルキーで調節します。



- サラウンド(リア)スピーカーの音量レベルはリアレベルキーで調節します。



- ④調節が終ったら、テストスイッチを押して、テストトーンの発生を止めます。

これで各スピーカーの音量バランス調節は完了しました。次に入力バランスの調節を行います。

サラウンド再生のしかた

3. 入力バランスの調節

ドルビー・プロロジック・デコーダの性能をフルに生かし、効果的なサラウンド再生を行うために、左、右の入力バランスの調節を行います。

①センター モードスイッチを押して、センタースピーカーのモードを切にします。

センターモード
CENTER MODE



②ドルビーエンコードされたソースを再生します。

③左右のメインスピーカーから出るセンターの音(セリフなど)が最小になるように入力バランスコントロールを調節します。



④調節が終ったら、センター モードスイッチを押して、センタースピーカーのモードをノーマルまたはファンтомの位置にします。

■組み合わせるシステムによって切り換える可能なセンターモードスイッチ

ドルビー・プロロジック・サラウンド再生時にはセンタースピーカーの役割は重要です。本機は様々なリスニングルームの状況を想定し、センターモードスイッチを設けました。

ノーマル………センタースピーカーが接続されているときはこの位置にします。

ファンтом………センタースピーカーを接続しないときはこの位置にします。この位置にすると、センター チャンネルの信号成分は左右のメインスピーカーへ振り分けられます。この場合でもドルビー・プロロジック・サラウンドをお楽しみいただけます。

■サラウンド再生

1 接続した各機器の電源を入れます。

2 サラウンドモードセレクターで再生するサラウンドモードを選択します。

3 接続した機器を操作して、ソースを再生します。

4 音量コントロールで音量を調節します。

5 好みに合わせてレベルコントロールセレクター/レベルコントロールキーを使って、音質・リアスピーカーのバランス・ディレイタイムを調節します。

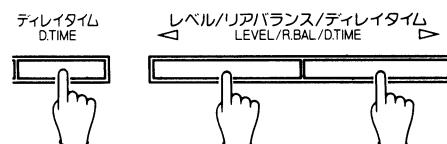
*トーンコントロール(音質調節)により、フロントの低音または高音を極端にブースト(強調)またはカット(減衰)した場合、センター、リアとの音のつながりが悪くなる場合がありますのでご注意ください。

■ディレイタイムについて

各サラウンドモードにはディレイタイムがプリセットされていますが、再生するソースやリスニングルームの状況により、ディレイタイムを変えることができます。

ディレイタイムを長めに設定すると、大きめの音場空間が想像され、短めに設定すると、小さめの音場空間が創造されます。

レベルコントロールセレクターのディレイタイムを押し、レベルコントロールキーで調節します。

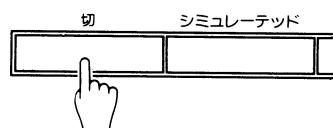


ディレイタイムが 短くなる ディレイタイムが 長くなる

■通常のステレオ再生

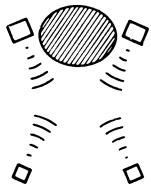
サラウンドモードセレクターの切を押すと、通常のステレオ再生になります。

通常のステレオ再生時は、センターおよびサラウンド(リア)スピーカーから音は出ません。



サラウンド再生の種類と特長

1. シミュレーテッド



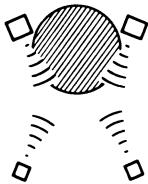
モノラルソースの再生に適したポジションです。

疑似ステレオ効果で音像イメージが広がりを持って聞こえます。「モノラル映画」や「モノラル音楽」ソースの再生時に広がり感のある音をお楽しみいただけます。

また、ステレオソースの再生時では、エネルギー感が増強されますので、お試しください。

ディレイタイム調節範囲=5~30mS

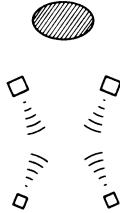
2. ライブ



音場が晴やかな感じになり、リスニングルーム全体に残響音が充満します。スタジオ録音のロックやフュージョンなど、比較的狭いリスニングルームに響き渡るようなソースの再生に適しています。

ディレイタイム調節範囲=5~30mS

3. ホール



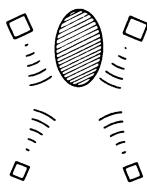
メインスピーカーに効果音が多少加えられ、センターの音の定位位置は、中央のやや奥まったところで、広がり感が得られます。

ホールの空間を強調するポジションです。

「大きなホールのオペラ」や「野外コンサート」などの雰囲気を創造することができます。コンサートホールの中程の席で聞いている感覚の音像イメージです。

ディレイタイム調節範囲=5~30mS

4. ドルビープロロジック



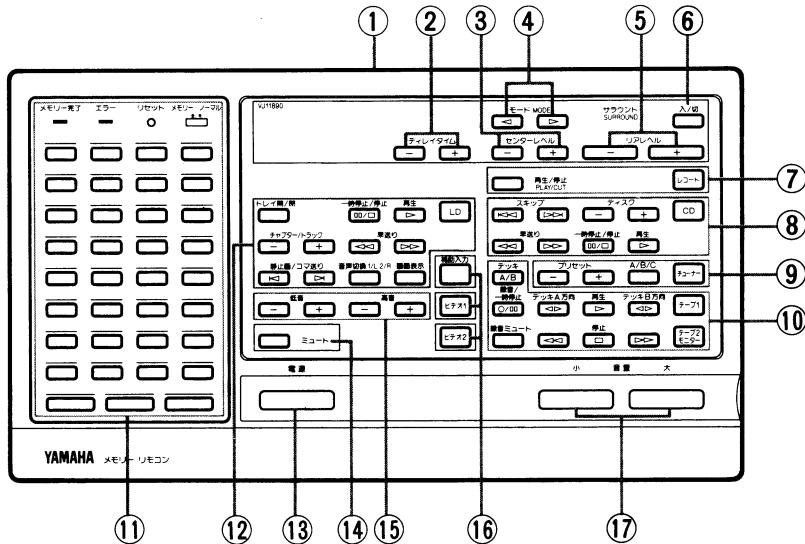
DOLBY SURROUND マークのついたビジュアルソフトを再生するときは、このポジションにします。

これらのビジュアルソフトは、ドルビーステレオならではの迫力と音響効果を生み出すために、ドルビー独自のシステムでエンコード録音されています。

本機はドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダを内蔵していますので、劇場で体験するのと同じような臨場感と音響効果を持って再生することができます。

ディレイタイム調節範囲=15~30mS

リモコンについて



■リモコンの各部の名称とはたらき

①送・受信窓

リモコンのコントロール信号(赤外線)を送・受信する窓です。

②ディレイタイムキー

ディレイタイム(遅延時間)を調節するキーです。+を押すとディレイタイムが長くなり、-を押すと短くなります。

※このキーはサラウンド再生時のみはたらきます。

③センターレベルキー

センタースピーカーのレベルを調節するキーです。+を押すと音が大きくなり、-を押すと小さくなります。

④モード(MODE)キー

サラウンドモードを切り換えるキーです。キーを押すたびにモードが順に切り換わります。(3ページ参照)

⑤リアレベルキー

リアスピーカーのレベルを調節するキーです。+を押すと音が大きくなり、-を押すと小さくなります。

⑥入/切キー

サラウンド再生を入/切するキーです。

⑦レコード操作キー

ヤマハのRS対応レコードプレーヤーの演奏キーです。

レコード……………オーディオインプットセレクターがレコードに切り換わります。

再生/停止(PLAY/CUT)……レコードプレーヤーの演奏をスタートまたはストップします。

⑧CD操作キー

ヤマハのRS対応CDプレーヤーの操作キーです。

CD……………オーディオインプットセレクターがCDに切り換わります。

再生……………CD演奏がスタートします。

一時停止/停止…………一度押すと一時停止し、もう一度押すと演奏が停止します。

スキップ◀◀…………演奏中の曲の頭に戻る。

▶▶…………次の曲の頭に進む。

早送り◀◀…………演奏の早戻し。

▶▶…………演奏の早送り。

ディスク……………CDチャンジャーのディスク選択。

(このリモコンは海外モデルとの共通設計です。
このキーは国内モデルでは使用しません。)

⑨チューナー操作キー

ヤマハのRS対応チューナーの操作キーです。

チューナー……………オーディオインプットセレクターがチューナーに切り換わります。

プリセット……………プリセットされた放送局を選局します。

A/B/C……………プリセットナンバーのグループ(例: P1~8、P9~16、P17~24)を切り換えます。

⑩テープ操作キー

ヤマハのRS対応カセットデッキの操作キーです。

テープ1……………オーディオインプットセレクターがテープ1に切り換わります。

テープ2……………オーディオインプットセレクターがテープ2モニターに切り換わります。また、3ヘッドデッキを接続すると、録音中に録音状態がモニターできます。

デッキA/B…………ダブルデッキのデッキAとデッキBの選択をします。

録音/一時停止…………録音スタンバイ状態にするときに押します。
録音を開始するときは再生を押します。

デッキA方向…………デッキAの走行方向を選択します。

デッキB方向…………デッキBの走行方向を選択します。

再生……………再生または録音をスタートします。

録音ミュート…………録音中に無録音部分を作るときに押します。

停止……………再生または録音の停止。

◀◀……………◀◀方向の早送り。

▶▶……………▶▶方向の早送り。

⑪ユーザーキー

他の機器のリモコンの機能をメモリーできるユーザーキーです。(14ページ参照)

⑫レーザーディスク

⑬LD操作キー

ヤマハのCD/CDV/LDフルコンパチブルプレーヤーの操作キーです。

LD……………ビジュアルインプットセレクターがLDに切り換わります。

トレイ開/閉……………ディスクトレイを開閉します。

一時停止/停止……………一度押すと一時停止し、もう一度押すと再生が停止します。

再生……………再生をスタートします。

チャプター/トラック……………LDのチャプターまたはトラックの頭出しをするキーです。

早送り▶▶……………早送り。

◀◀……………早戻し。

静止画/コマ送り……………LDのCAV/標準ディスクで静止画/コマ送り再生を行なうキーです。

音声切換I/L 2/R…………LD再生の音声をステレオ→1/L→2/Rに切り換えるキーです。

画面表示……………再生中にチャプターNo.、トラックNo.、フレームNo.、タイムNoなどを表示させるキーです。

⑬電源キー

本機の電源を入、切するキーです。

※本体のSTANDBYインジケーターが点灯していないときは、リモコンで電源の入、切は行えません。一度本体の電源スイッチで電源を入れてから、リモコンで操作してください。

⑭ミュートキー

ミューティング(消音)するときに押します。もう一度押すと解除されます。ミューティング中は、音量コントロールのインジケーターが点滅します。

⑮音質調節キー

低音……低音を調節します。+を押すと増強され、-を押すと減衰します。

高音……高音を調節します。+を押すと増強され、-を押すと減衰します。

⑯ビジュアルインプット切り換えキー

補助入力……ビジュアルインプットセレクターが補助入力に切り換わります。

ビデオ1……ビジュアルインプットセレクターがビデオ1に切り換わります。

ビデオ2……ビジュアルインプットセレクターがビデオ2に切り換わります。

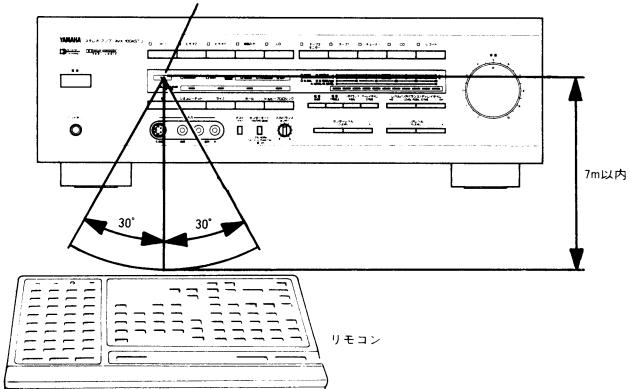
⑰音量キー

音量を調節します。大を押すと音量が上がり、小を押すと下がります。また他の機器のボリュームリモコン信号をメモリーすることもできます。(次ページ参照)

■リモコン使用範囲について

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本機およびCD、LDなど本体の受光部に向けて正しく操作してください。受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。また受光部に強い光が当たると誤動作することがありますので注意してください。

リモコン受光窓



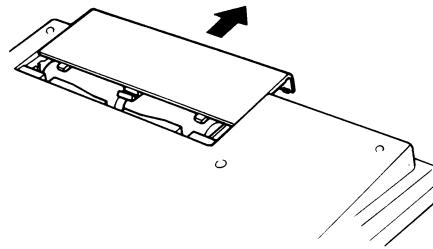
ご注意

●メモリー完了インジケーターやエラーインジケーターが点灯しなくなったときや、使用可能距離(角度)が短く(狭く)なったときは、乾電池の電圧が下がっています。新しい乾電池と交換してください。

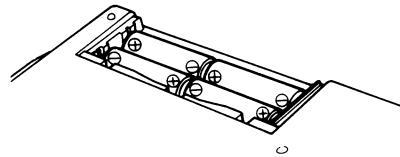
●乾電池の交換が3分以内の場合は、メモリーが失われることはありません。しかし、乾電池の電圧が下がったままで長時間放置すると、メモリーがすべて失われ、メモリーし直さなければならなくなります。

■電池の入れかた

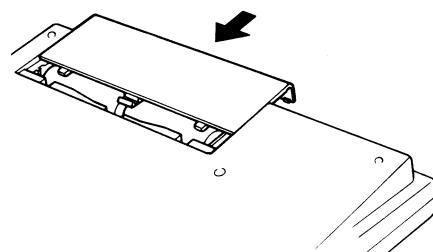
1 リモコンの裏ぶたを開けます。



2 単3乾電池4本をケース内の指示にしたがって+、-を正しく入れます。



3 カチッと音がするまで裏ぶたを閉めます。



■乾電池についてのご注意

- プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 弱ってきた電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものと混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

リモコンのメモリーについて

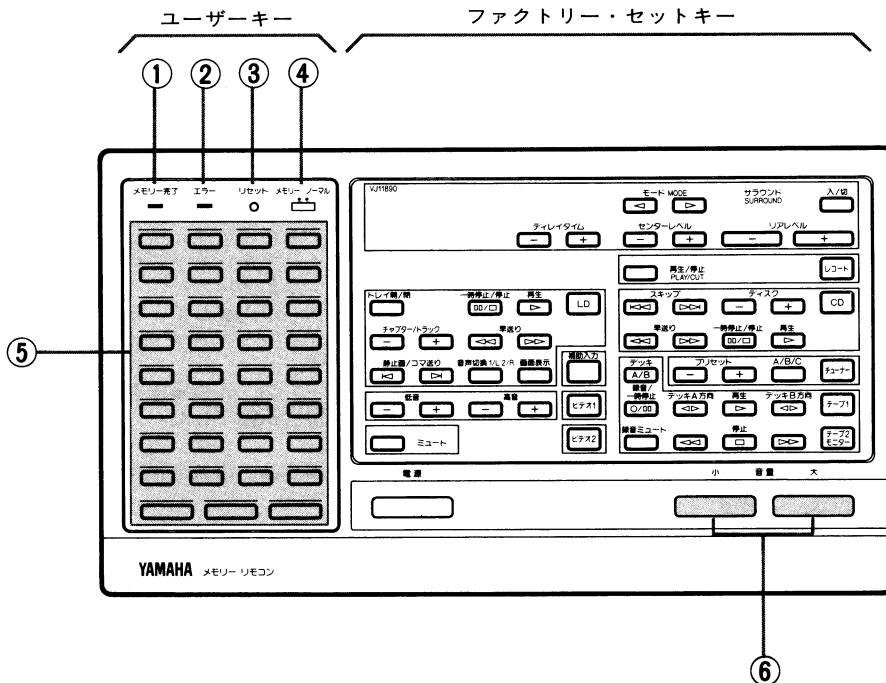
■ユーザーキーについて

ユーザーキーには他の機器のリモコン機能を37種類メモリーすることができます。

本機に付属のリモコンは、ファクトリー・セットキー(すでにヤマハで機能をメモリーした固定キー)とともに、ユーザーキーの機能を加えた多機能リモコンとして、本機を始め、他の機器のコントロールにも広くお使いいただくことができます。

*ファクトリー・セットキーの機能は固定されていますので、変更はできません。

*メモリーするリモコンの信号(コード)によっては、本機のメモリー容量がオーバーして、37のユーザーキーすべてにメモリーできないことがあります。



①メモリー完了インジケーター

- メモリーモードのとき、メモリーが正しく行われると点灯します。
- ノーマルモードのとき、リモコン機能がすでにメモリーされているキーを押すと点灯します。

②エラーインジケーター

- 複数のキーを同時に押した場合点灯します。
- メモリーモードのとき、メモリーが正しく行われない場合点灯します。
- ノーマルモードのとき、リモコン機能がメモリーされていないキーを押すと点灯します。

③リセットスイッチ

メモリーした内容を消すときに使います。

④モードスイッチ

- メモリーモードとノーマルモードを切り換えるスイッチです。
- メモリー…………他の機器のリモコン機能を記憶(メモリー)するときのモードです。
- ノーマル…………リモコン操作を行うときのモードです。通常はこのモードにしておきます。

⑤ユーザーキー

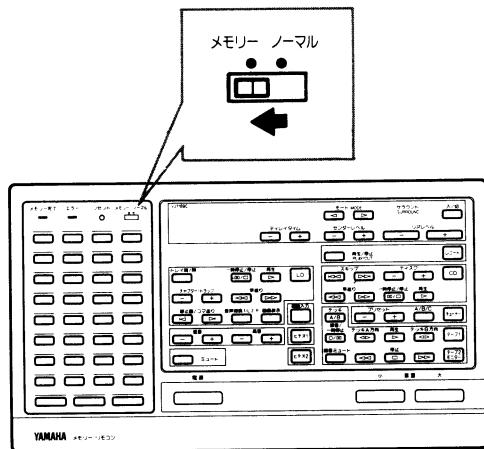
他の機器のリモコン機能をメモリーしたり、送信するときに押します。

⑥音量キー

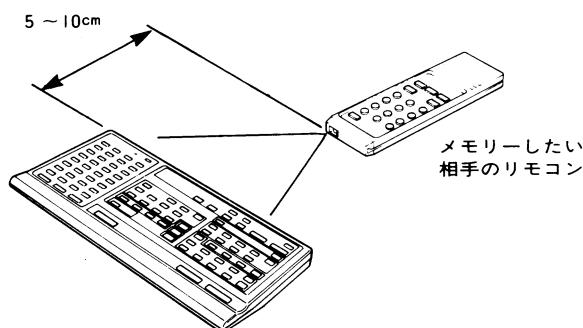
他の機器をマスター音量として使うときなどに使います。通常は本機の音量コントロールキーですが、他の機器のリモコン機能をメモリーすることもできます。

■メモリーのしかた

1 モードスイッチをメモリーの位置にします。



2 本機の送信窓とメモリーしたい相手のリモコンの送信窓を5~10cmの間隔で向かい合わせます。



3 メモリーしたいユーザーキーを押します。

メモリー完了インジケーターが約15秒間点滅します。

●押したユーザーキーにすでに機能がメモリーされている場合は、エラーインジケーターが点灯して警告します。

メモリーを変えてもかまわない場合は、そのまま次のステップに進んでください。別のキーに変更する場合は、別のユーザーキーを押し直してください。

※⑥音量キーを押したときは、エラーインジケーターが点灯し、メモリー完了インジケーターが点滅します。

4 メモリー完了インジケーターが点滅している間に相手のリモコンのメモリーさせたい機能のキーを押します。

メモリー完了およびエラーインジケーターが点灯します。インジケーターが消えるまで相手のリモコンキーは押し続けてください。

5 メモリーが完了すると、メモリー完了インジケーターが約2秒間点灯します。

●メモリーが完了したキーには、キー機能を記入した付属のシールをガイドラインに沿って貼ってください。

●エラーインジケーターが点滅した場合は、メモリーが不完全ですので、もう一度メモリーしなおしてください。

6 3~5の操作を繰り返し、必要な機能をメモリーします。

7 メモリーが終了したら、モードスイッチをノーマルの位置に戻します。

■メモリーした内容を消すときは

①モードスイッチをメモリーにします。

②リセットスイッチをシャープペンシルの先などで押します。

メモリー完了およびエラーインジケーターが約15秒間点滅します。

③インジケーターが点滅している間に消去したいキーを押します。メモリー完了インジケーターが約1秒間点灯し、メモリー内容が消去されます。

他のメモリーも②、③の操作を繰り返して消すことができます。

④メモリーの消去が終了したら、モードスイッチをノーマルの位置に戻します。

※音量キーの場合は、消去を行うと、本体の音量コントロールの機能に戻ります。

ご注意

メモリーできないときやメモリーしても動作しないときは次の項目をチェックしてください。

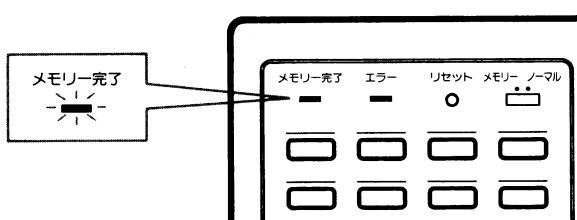
●相手のリモコンの電池が消耗していませんか？

この場合相手のリモコンで機器の操作ができるても、本機ではメモリーした信号が不完全になります。相手のリモコンの電池を交換して、もう一度メモリーしてください。

●相手のリモコンとの距離が近すぎるか、遠すぎませんでしたか？

●直射日光など強い光が当たっているところでメモリーしませんでしたか？

●相手のリモコンの種類によっては、本機のメモリー機能が使えない機種もあります。

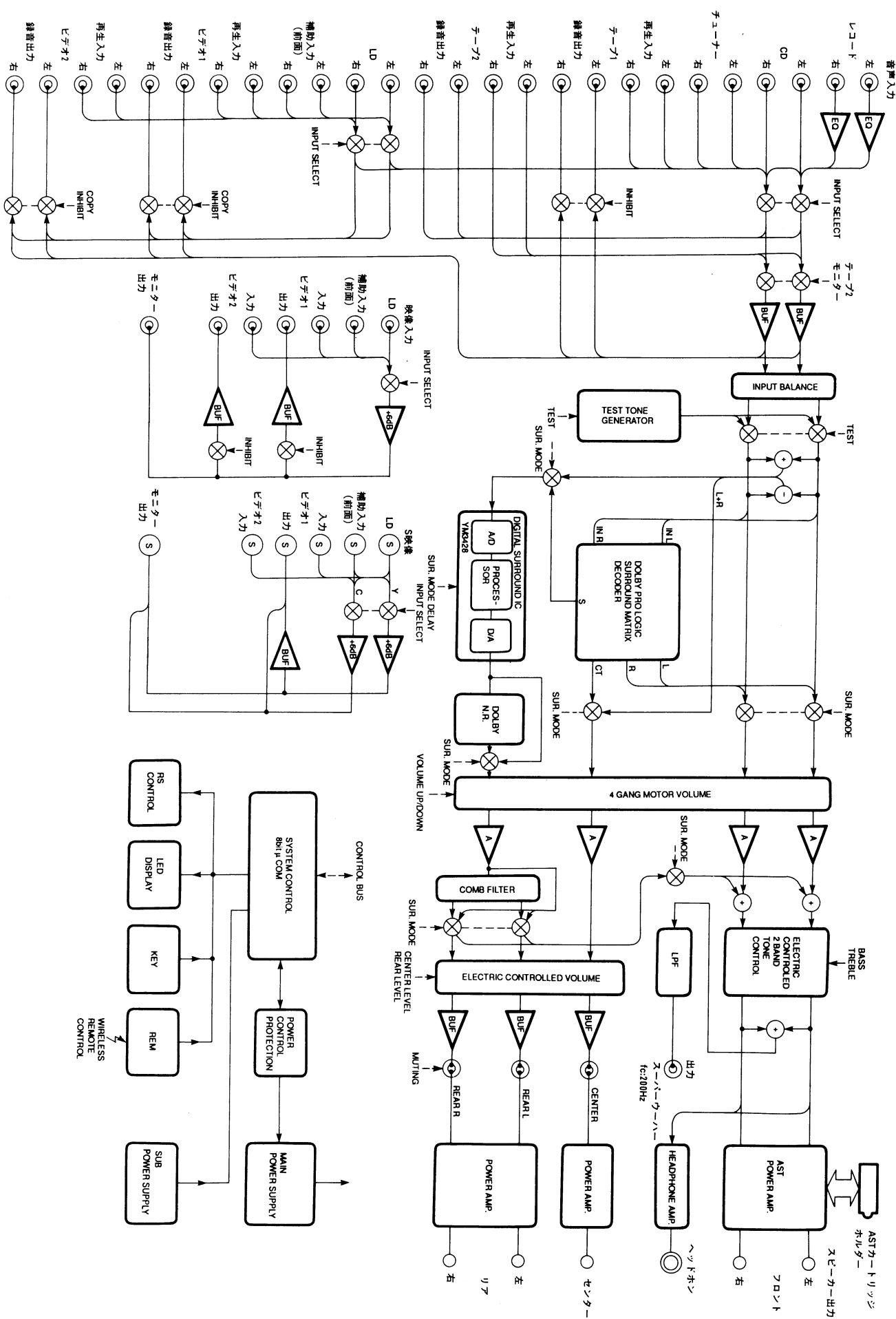


故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです	
電源スイッチを押しても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。	
音が出ない。	ビジュアルまたはオーディオインプットセレクターが、再生したいソースにセットされていない。 ボリュームが絞られている。	再生したいソースのキーを押してインジケーターを点灯させます。 音量コントロールまたはリモコンの音量キーで音量を上げてください。	
	接続が不完全。	接続を確認してください。	
	ミュートが働いている。	一度音量コントロールを左に回しきり、音量を下げてから、リモコンでミュートを切ってから再度音量を調節してください。	
ハム音が出る。	ピンプラグコードの接続が不完全。	ピンプラグをしっかりと差し込んでください。	
	レコードプレーヤーのアースコードを接続していない。	アースコードを本機のアース端子に接続してください。	
レコード演奏のときに音が小さい。	MCカートリッジを装着したレコードプレーヤーを演奏している。	MCカートリッジ装着のレコードプレーヤーはMCヘッドアンプを使って本機に接続してください。	
サラウンド(リア)スピーカーから音が出ない。	リアレベルが最小になっている。	リアレベルキーの+側を押して、レベルを上げてください。	
	サラウンドモードが切になっている。	サラウンド再生時以外はサラウンド(リア)スピーカーから音は出ません。	
センタースピーカーから音が出ない。	センターレベルが最小になっている。	センターレベルキーの+側を押して、レベルを上げてください。	
	センタースピーカーのモードがファンタムまたは切になっている。	センタースピーカーのモードをノーマルにしてください。	
	サラウンドモードが切になっている。	サラウンド再生時以外は、センタースピーカーから音は出ません。	
リモコンで操作できない。	乾電池が消耗している。	乾電池を4本とも交換してください。	
	リモコン操作可能範囲からはずれている。	本体のリモコン受光窓に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作してください。	
リモコンのユーザーキーへのメモリーが正常に動作しない場合は、下記項目を確認してください。			
メモリーでき ない	エラーインジケーターが2秒点灯	信号にノイズが含まれている場合があります。	もう一度メモリー操作をしてください。
		相手のリモコンの乾電池が弱っている。	乾電池を交換してください。
メモリーでき たが、相手の機器 が動作しない。		相手のリモコンの変調方式が異なったりすると本機の処理能力を拡大して、次の信号の待機状態となります。	もう一度メモリー操作をしてください。
		メモリー完了、エラーインジケーターが2回点滅	これ以上メモリーできません。不要なメモリーを消してから、もう一度メモリーしなおしてください。
		キーを押しても何も点灯しない	乾電池を4本とも交換してください。
		信号以外のノイズも一緒に記憶してしまった。	もう一度メモリー操作をしてください。
		不正確な信号を記憶してしまった。	
		電源スイッチのような信号を早いタイミングで2回押して記憶してしまうと、電源ONの後すぐにOFFになってしまうので注意してください。	
		相手の機器のリモートセンサーの受光距離能力が低い。	相手の機器に近づいて操作してください。
		音量調節やビデオの早送り再生などの連続動作ができず、単発発信になってしまいます。	メモリー操作の際、メモリー完了、エラーインジケーターが同時に点灯している間相手のリモコンのキーを押し続けてください。

ブロックダイアグラム



参考仕様

アンプセクション

定格出力

[メイン]

6Ω(20Hz～20kHz、0.05%)

6Ω(EIAJ 1kHz、10%)

(サラウンド、センター)

6Ω(1kHz、1%)

6Ω(EIAJ 1kHz、10%)

入力感度/入カインピーダンス

レコード(MM)

70W+70W

CD他

100W+100W

最大許容入力

レコード(MM)(1kHz)

2.5mV/47kΩ

150mV/47kΩ

出力電圧/出カインピーダンス

録音出力

140mV

出力(リアL/R、センター)

150mV/150Ω

2V/1kΩ

最大出力

出力(20Hz～20kHz、0.02%)

4V

ヘッドホン出力/ヘッドホンインピーダンス

±0.03% THD 1kHz RL=150Ω

3V/100Ω

周波数特性

CD他(20Hz～20kHz)

0±2dB

RIAA偏差

レコード(MM)

±0.5dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)

レコード(MM)(3V)

0.01%

CD他→スピーカー(35W/8Ω)

0.02%

CD他→スピーカー(7W/8Ω)

0.5%

S/N比(IHF-A)

レコード(MM)(2.5mV入力ショート)

80dB

CD他(入力ショート)

98dB

残留ノイズ(IHF-A)

チャンネルセパレーション(1kHz)

レコード(MM)(Vol.-30dB ショート)

150μV

CD他(Vol.-30dB 5.1kΩ)

65dB

65dB

トーンコントロール

低音 可変幅

±10dB(50Hz)

350Hz

ターンオーバー周波数

±10dB(20kHz)

3.5kHz

高音 可変幅

ターンオーバー周波数

3dB

フィルター特性

サブソニックフィルター(内蔵)

15Hz 12dB/oct.

トランкиングエラー(0～-60dB)

3dB

ビデオセクション

テレビジョン方式

日米標準方式 525本 60フィールド

1.0Vp-p 75Ω

定格入力

1.0Vp-p 75Ω

定格出力

1.5Vp-p 75Ω

許容入力

50dB

S/N比

電源電圧

AC 100V 50/60Hz

180W

消費電力

電源コンセント

連動×2 100W max.

非連動×1 200W max.

外形寸法(W×H×D)

435×145×377 mm

重量 10kg

重量

付属品

リモコン 1

単3乾電池(SUM-3) 4

シール、ピンセット 1セット

6ピンリモコンケーブル(カセットデッキ用) 1

5ピンリモコンケーブル(チューナー用) 1

リモコンケーブル(レコードプレーヤー用) 1

ピンプラグコード(映像用) 1

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示しております。

■お客様ご相談窓口

北海道 〒064 札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内

北海道営業所 TEL(011)512-6115

仙 台 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル4F

東北営業所 TEL(022)223-3101

東 京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F

首都圏第一営業所 TEL(03)255-5691

首都圏第二営業所 TEL(03)255-2201

神田営業所 TEL(03)255-6767

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル

北関東営業所 TEL(025)241-2084

神奈川 〒211 川崎市中原区木月1184 ヤマハ日吉センター内

神奈川営業所 TEL(044)434-4871

浜 松 〒433 浜松市幸3-5-8 ヤマハ四ヶ池センター内

浜松営業所 TEL(0534)71-1207

名古屋 〒464 名古屋市千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内

中部営業所 TEL(052)782-7551

大 阪 〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内

関西営業所 TEL(06)647-6411

日本橋営業所 TEL(06)647-6411

中央営業所 TEL(06)647-6411

広 島 〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内

中国営業所 TEL(082)244-3745

九 州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

九州営業所 TEL(092)472-2131

本 社 〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

お客様ご相談センター TEL(0534)60-3409

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道 〒064 札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内

TEL(011)513-5036

仙 台 〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

TEL(022)236-0249

東 京 〒211 川崎市中原区木月1184

TEL(044)434-3100

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

TEL(025)243-4321

松 本 〒390 松本市大手2-5-2 中村屋ビル3F

TEL(0263)32-5930

浜 松 〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内

TEL(0534)65-6711

名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2

ヤマハ名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230

京 都 〒600 京都市下京区七条通間之町東入材木町483第2マスイビル

TEL(075)361-6470

大 阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

TEL(06)877-5262

神 戸 〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ神戸店内

TEL(078)321-1195

四 国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内

TEL(0878)22-3045

広 島 〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39

TEL(082)874-3787

九 州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL(092)472-2134

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

国内営業部 TEL(0534)60-3451

生産部品質保証課 TEL(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。